

【子育て・教育】

・本市小学校のスクールバンドがこれからも継続して活動するには、どのような取り組みが必要でしょうか。

⇒スクールバンドは個人的にも継続してほしいと思っており、指導者の確保が重要と考えています。部活動のクラブ化の流れもありますが、歴史と伝統ある活動が地域の理解と支援により継続できるよう努めていきます。みなさんも頑張ってください。

・小中学生が室内で遊べる場所が少なく、月曜日は生きがい文化センターも休館です。遊べる場所を増やしてください。

⇒即答はできませんが、子どもたちの声をしっかり受け止めます。

・学習障がいなどで支援が必要な子どもが増えている中、支援員の配置が不足しています。支援員を増やすことは可能ですか。

⇒本市では小学校6校、中学校2校に計12名の支援員を配置しています。学年ごとに1人の配置は難しい状況ですが、支援が必要な子どもが増えていることを認識しております。学校やPTAからの要望もあることから、支援員の増員に向けて努力していきます。

・本市の高校の2校体制について、現状の生徒数や地域性を踏まえて存続の可能性はどう考えていますか。

⇒高校の関係者から2校存続の強い意見があり、現在も存続しています。市内の子どもたちの約半数が市内の高校に進学しており、旭川などが隣接しているという地域性を考慮すると少ない数字ではないと認識しています。

・拓殖大学北海道短期大学跡地は今後どのように使われる予定ですか。

⇒拓殖大学北海道短期大学については学生募集停止という方向が決まってまだ半年のことであり、具体的なものはないものの、本部の法人が受け入れ先を模索中で、確定しているものではありません。なお、本市としては稲作研修ができる学習機関としてのアカデミックな内容を残せるよう、拓大に対し要望していきたいと考えています。

・拓殖大学北海道短期大学の跡地活用について、若者の移住促進に活用されますか。

⇒農業に関わる機能が残り、学生もいるという形になればと思っています。若者の移住促進にもつながるため、そのような形が継続できればと思っています。

・本市の制服補助制度は3年間の事業とされていますが、その後の制服体制について市長の方針はありますか。

⇒制服補助制度は3年間を区切りとし、目的に沿った支援のために期間を定めています。今後については、この3年間の間に検討を進め、支援の継続や変更の可能性を含め、予算などを考慮しながら検討していきます。また、入学時の支援としての位置づけにもなることから、その必要性を認識しています。

・制服のリユースが困難な状況にある中で、市内で制服の統一や幅を持たせることで家庭の負担軽減につながるのではないのでしょうか。

⇒制服の運用については教育委員会の管轄ですが、保護者や子どもたちの声が重要であり、そうした意見を教育委員会に伝え、学校と連携して協議が進められればと考えています。

【人口・まちづくり】

・クラウドファンディング型のふるさと納税を活用して、市民が企画する事業やイベントを支援する仕組みを導入できませんか。

⇒ふるさと納税は貴重な財源であり、情報発信にもつながる有意義な取り組みと考えています。本市では現在クラウドファンディング型は導入していませんが、どのような形で取り組めるかを研究していきたいと考えています。また、これについては公平性を保つために公募形式で事業を募ることも必要と考えます。

・人口減少と高齢化が進む中で、健康寿命の延伸に向けた取り組みはどのように進められていますか。

⇒現在、予防習慣 100 日チャレンジ事業を展開しています。今後も健康寿命の増進に向けた取り組みを継続していきます。

・今回の市長ミーティングが2回のみで開催となった理由は何ですか。また、市民への周知やフィードバックの方法はどうなっていますか。

⇒昨年は5地区を全て平日の夜に開催しました。今回は平日の夜と休日の日中開催として新たな形にしています。昨年の意見と回答は市のホームページや広報に掲載しており、今年も分かりやすい形での周知をしていきます。

・本市の人口減少に対し、ベッドタウンのような形で社会増を目指す取り組みはありますか。

⇒住みやすさを充実させることにより、旭川市や札幌市への通勤圏としての魅力を高めるとともに、とりわけ若者の移住を積極的に進めていきたいと考えています。

・本市は住みやすく好きなまちですが、人口減少による懸念があります。

⇒本市は住みやすいまちであり、市民が自慢できるように、魅力を可視化していく取り組みが必要と考えています。通勤の利便性がありますし、スポーツ大会開催地としては、市外から集まりやすく、使用料が安く良いと評判です。誰もが来やすく、住み続けたいまちを目指します。

・健康維持のため予防習慣 100 日チャレンジを今後も継続してほしい。

⇒予防習慣 100 日チャレンジはコスモヘルス株式会社と「市民の健康づくりに係る包括連携協定」を締結し、同協定に基づき実施をしています。目標を上回る 300 人以上が参加し、健康増進に寄与していると考えています。今後も何らかの形でつながるような方向で、企業と協議できればと思っています。

・市内には多くの公園がありますが、一つの場所で落ち着ける公園がないため、そういった公園づくりを提案します。

⇒一定時間佇んでいられる公園がないと感じています。大きな公園ではグリーンパーク 21 や広里ふれあいパークがありますが、設備は老朽化しています。今年から公園全体の見直しをしており、ご指摘のとおり、みなさんが落ち着ける公園が必要と認識しています。

・地域おこし協力隊の定住率が低いと認識していますが、今後どのような取り組みをしていきますか。

⇒過去、低い定住率の時期がありましたが、今年の春にも複数名が定住されました。本市は農業希望者が多く、就農までのマッチングが定住への課題と考えています。地域おこし協力隊は働き盛りの方が多く、移住にもつながっていくためしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

・地域おこし協力隊と市民の交流機会を増やすべきではないでしょうか。

⇒交流機会の拡充が隊員の定住につながるため、今後も努力していきます。

【イベント】

・本市出身のアーティストが地元で活動する機会が少ないように感じます。市の支援体制はどうなっていますか。

⇒若いアーティストの活躍が目立ってきており、観光大使制度以外にも招へいなどができないか検討していきます。

・みどり館の条例が厳しく、活用しづらい状況です。市民がイベントなど利用しやすくするために条例の見直しは可能ですか。

⇒みどり館は建設された経過から条例の縛りが強いものですが、見直すところは見直すことが必要と考えています。複合施設建設後、市全体の施設の見直しを行う予定であり、その中で過度に縛り付けることのないよう目的の拡大や利用条件の緩和を整理していきます。

・留萌本線の廃止に伴い、留萌出身の著名人を呼んでイベントを開催することは検討されていますか。

⇒留萌本線の廃止までの間に様々な事業展開を予定しています。著名人を招いたイベントについても意見として受け止めます。

【複合施設】

・複合施設を建設することでまちの中心部が活性化されるということですが、施設を建てるだけで人の流れが生まれるとは思えません。具体的にどのように活性化させますか。

⇒複合施設は駅西に展開しますが、バスターミナルを併設することで交通の結節点となり利便性が向上します。これにより人の滞留が生まれ、にぎわいが期待されます。これまでバス利用者は市立病院やプラザ深川など駅から離れた場所で待機していましたが、今後は駅前での利便性が高まります。経済センター、プール、生協などの既存施設を線で結び、さらに面として広げることで、まち全体の活性化を図ります。また、富良野ではマルシェと駅の間には様々な事業が展開されることで、にぎわいが生まれました。本市でも民間事業者と連携し、段階的に取り組みを進め、点を線に、線を面に広げていくことで、まちのにぎわいを創出していきます。さらに、設計段階から子ども、高校生、拓大生、まちの活動団体などとワークショップを実施し、様々な展開を検討しています。建物を建てて終わりではなく、いかに活用していくかというソフト面にも力を入れていきます。

・複合施設の建設、人口減少により市債の一人当たりの負担が増えるのではないですか。

⇒市役所建設時に財政シミュレーションを行っており、借金の返済が過大にならないようコントロールしています。複合施設の償還は4年後から始まり、他の借金の返済終了と調整して負担を平準化しています。

【公共交通】

- ・JR留萌本線の廃線後、バス運行の財源は自治体の負担になりますか。
- ⇒JR北海道が18年分の負担額を一括で沿線自治体に支援するため、本市が個別に負担することはありません。

【住環境】

- ・昨年のタウンミーティングで草刈り等の要望をしました。住環境が良くなり感謝しています。
- ⇒指摘により速やかに進められたと考えています。今後も住環境の整備に努めていきます。
- ・納内老人いこいの家の解体の経過について教えてほしい。
- ⇒納内老人いこいの家についてはシルバークラブが利用しないこと、また、町内会長などにも確認し、屋根雪の管理や利用回数、駐車場が無いことなどから解体することを決定しました。

【自治・防災】

- ・本市の緊急避難場所はどこにあり、どの程度の物資が備蓄されていますか。音江地区の避難場所はどこになりますか。
- ⇒本市には指定避難所が37施設あり、音江地区ではコミュニティセンター、学校、公民館などが該当します。水などの物資は一部施設に備蓄されており、必要に応じて職員が物資を運び込む体制となっています。
- ・避難所に備蓄されている食料はどのようなもので、保存期間はどの程度ですか。
- ⇒保存パンやビスケットなどが備蓄されており、保存期間は5年から7年程度のものが多いです。防災訓練やイベントで実際に配布・試食する取り組みも行っています。